

**(株) テンダ**  
**ホールディングス**  
 代表取締役 小林 謙氏  
 東京都豊島区西池袋1-11-1

前田利家は若い頃には傾奇者と疎まれた。その後、加賀に八十四万石を領する豊臣家五太老の次席格となる。秀吉は信長家臣時代からの友であり、その世嗣・秀頼の後見を託された。見識、実力ともに家康に對抗しうる唯一の人物で、石田三成ら反家康陣営の精神的支柱となった。日本3社(中国2社)で形成するデングルの中核として活躍する事業を皮切りに、現在ではソフトウェアプロダクト、マイグレーションサービス、ファイチャーフォン&スマートフォンサイト構築、ソーシャルアプリ提供まで、常に新しい時代のニーズに即して成長し続けてきた。創業20年を迎え更なる飛躍の時だ。

**ベストバック(株)**  
 代表取締役 荻上 穂氏  
 東京都代田区岩本町2-4-3

池田輝政はその武威と人物を慕われて仕官を望む者が多かった名將の器。秀吉の信任が厚い勇將の一人として武名が高かった。関ヶ原合戦の重要な前哨戦といへば織田秀信守る岐阜城攻めに参加して攻略。戦後は姫路五十二万石の藩主となり、後に姫路宰相と呼ばれた家康の娘婿。食品包装資材、食肉包装資材、食品包装システム、包装機の販売商社。1979年の設立以来、海外展示会共催や米国の輸入取引などを積極果敢に推進してきた業界実力派だ。旭ダウ(現旭化成ケミカルズ)との強い信頼関係を基軸として、地味だが着実な成長を続けてきて、製品力と誠実さで信任が厚い。

**(株) J・M・C**  
 代表取締役 香月 誠氏  
 東京都目黒区中目黒1-8-8

上杉景勝は謙信の養子にして豊臣政権五太老の一翼。家康の背後を脅かした北の雄で、無口ながら家康の謙信の義を受け継ぎ、執政・直江兼統と共に天下第一の実力者。家康といえども、理が通らぬことには断乎として首を振った。それが「関ヶ原の戦い」の呼び水となった。学校教育市場に特化した専門企業の雄であり、教育の情報化を広くバックアップ。長年培ってきたノウハウを現場へ還元し、教師が教育に専念できる環境づくりを提案。学校ごとのニーズに合わせたサービスが好評だ。タブレット端末やクラウドの活用など、学習スタイルが変化している中、同社の果たす役割は大きい。

**(株) ホットアルパム**  
**炭酸泉タブレット**  
 代表取締役 小星 重治氏  
 東京都八王子市東町1-10

甘利虎泰は板垣信方とともに青年武將、晴信を支えた武田家の重鎮。信虎の父・信玄に代わり、合戦で常に先陣を務める剛の者として諸国にその勇名を馳せていた。信玄による信虎追放事件では板垣とともに協力して信玄を擁立。領国支配体制の礎を築き上げた軍略家でもある。重炭酸ソーリュウムと炭酸水という誰も実現できなかった組み合わせで、会心の重炭酸入浴剤「Hot Tab」を開発。大手を巻き込んで炭酸泉入浴剤ブームの火付け役となった。同社が他社の追従を許さぬ強さの秘訣は、空気中に飛ばしてしまう炭酸ガスではなく24時間効果が持続する重炭酸イオンに着眼した先見力だ。

**(株) Chrysmela**  
 代表取締役社長 菊永 英里氏  
 東京都文京区関口1-9-7

照子は光秀の流浪時代を支えた糟糠の妻。光秀が仲間を集めて志を語らうる会を催すにあたって、酒肴を用意するための金須づくりには難渋した折、夫の苦衷を察した照子は美しく長い髪を売って豪勢な食事を準備し、求をもちてきた。照子は光秀の栄達を願い献身的に支え続ける。主力商品「クリスマラキャッチ」は従来とは違う仕組みのピアスキャッチで特許も取得。外れにくくピアスの紛失を防げる画期的な商品であり、一つでは全てのピアスに対応できるおとって購入者の満足度は高い。高精度を実現する精密機器工場が製造、まさに「ピアスを守る」新常識として認知度を増している。

**(株) アート**  
 代表取締役社長 駒形 松雄氏  
 東京都品川区東五反田1-25-11

大谷吉継は秀吉から「百万の兵を指揮させてみたい」と見込まれた知勇兼備の傑物。親友の三成から重大な企てを打ち明けられ、無謀であることを弁じ翻意を促す。が三成の決意が固いと知り、負けを覚悟で西軍に味方する。自ら立身も三蔵との「義」に生きた好漢である。出入管理・入退管理・入室管理システムの発案と成長を見つめて続けてきた。業界界隈で「セキユレイ」という言葉にまだ馴染みが薄かった1976年に創業し、以来オフィスビル住宅マンションに不可欠なセキュリティシステムを開発してきた。豊かな社会の「安全」「安心」そして「信頼」と「便利」を支える知勇兼備だ。

**(株) トライサーブ**  
 代表取締役 庄司 文明氏  
 東京都豊島区西池袋1-18-2

南光坊天海は徳川家康・秀忠、家光の三代が師僧と崇めた傑物。家康から天台宗の僧侶を統括する役職を与えられ、朝廷からは僧正の位を賜った。徳川幕府を支えたブレインの中心的人物だが、前半生は不眠点が多くそのため、天海・明智光秀という説が今も根強く伝わっている。ソフトウェア開発及び業務アプリケーション作成、開発環境構築技術サービスの専門集団。大企業ではないが志の高い粒揃いの技術者が集い、業界でも一級の評価と信頼を培っている。社名が示すとおり、のびのびとした精神と満足のサービスを念頭に、たいむごとのない研鑽姿勢で互いが切磋琢磨しあう果敢な社風だ。

**(株) マリノ**  
 代表取締役 伊藤 裕昭氏  
 神奈川県横浜市港南区新橋5-2-8

板垣信方は信虎、晴信の二代に仕え、甘利虎泰と共に筆頭家老にあたる「二階」の地位にあった武田家の重臣。晴信の信方への信頼の高さは他に並ぶ者もなく、信虎追放のクーデターでは中心的な役割を果たした。諸將や家臣、領民に至るまで絶大な信頼を得た甲斐の柱石である。各取引先企業から「その信頼の質、技術の高さは他に並ぶ者でなし」と評される正統派企業。ソフトウェアプロダクト、インフラシステム、ソリューションという3つの事業を柱とし、専門知識、高度な技術力、先見性で常に顧客の期待を超える成果を提供。思いやりの心を軸に人間力を高める志向も原点だ。

**ユミルリンク(株)**  
 代表取締役社長 清水 亘氏  
 東京都渋谷区恵比寿4-3-8

長束正家は近江水口五万石の城主にして秀吉五奉行の一人。理財の才に長け、大軍の兵糧(武器の輸送)や太閤検地で力量を発揮し、秀吉政権の財政的基礎を築いた。前田玄以が公家・社関係、浅野長政、石田三成、増田長盛が一般政務の処理を担当し、正家は財政を担った後才である。メール配信システムの俊才。企業と消費者のコミュニケーションを実現する手段として、主力であるメールマーケティング製品とそのサービスが卓越の評価を得ている。ソフトウェア技術を基軸に新しい価値を生み出し、良質なコミュニケーションをサポートする同社は貴重な存在であり21世紀の注目企業だ。

**(株) インテリボイス**  
 代表取締役社長 中村 健氏  
 東京都代田区岩本町2-13

安国寺惠庵は小早川隆景、吉川広家とともに中国地方の雄。毛利家を支えた外交官。諸国の大名、重臣と通じ、豊富な情報量を駆使して、毛利家の安泰を図った。武勇で能力を発揮する名將とはひと味違い、戦う前に相手の戦力、味方になる者、時の運などを予見した名軍師でもある。時代に先駆けた技術で、音声対話システムやVoIPをリード。もっとも自由でもっとも快適なコミュニケーションの実現を目指している。「自主独立」とは社指針として、自ら主権を握り、自らの力で、新技術開発の研鑽に努め、「音声」による豊かな社会の創造に余念がない。21世紀が求めた名軍師と言える。

**(株) シュタールジャパン**  
 代表取締役社長 菊池 勝氏  
 東京都港区芝3-13-13

馬場信春は信玄をして「一国の太守になれる器」と称させた文武両道の武人。信玄を支えた武田二十四将の一人で軍功隆立した。川中島の戦いでは、妻女山に陣を構えていた上杉謙信の背後を突く別働隊を指揮し武田軍の先駆けとなった。信玄に後援を受けた武田家の重鎮だ。技術情報、翻訳の分野で全言語、全メディアのコミュニケーションをサポートするシュタールグループを日本法人。本社があるスイスを始め31カ国に拠点をもち、相互協力による顧客のグローバル化を支える稀有な存在だ。翻訳支援ツールを自社開発するなど、プロフェッショナル集団としての挑戦に疲れない。

**(株) ケミコート**  
 代表取締役社長 中川 完治氏  
 千葉県浦安市北栄4-15-10

井伊直政は「井伊の赤備え」を全国に轟かせた徳川四天王の一角。家康が武田家の旧領、旧臣を併合する過程で起こった北条氏直との戦いの中、和平方針を担い、落着かせ家康の信頼をよび高めた。その後、武田の家臣山内昌景の精鋭部隊を引き継いで、「赤備え」の大将となり名を博した。表面処理の精鋭集団。業種は地味だが金属の腐食を防ぎ外観の美観を保つなど、幅広い領域で重宝がられる不可欠な分野だ。昭和32年の創業以来、半世紀を越える歴史と実績を持つ同社はまさにその先駆け。技術開発はもろろんのこと、海外展開や工場の充実を深耕する業界第一人者を目指し、高い成長軌道を描く。

**(株) 橋**  
 代表取締役 倉持 泰之氏  
 東京都渋谷区代々木3-26-2

榊原康政は少年にして家康に近侍し、そのままだ徳川譜代家臣団に名を連ね、一生を家康のためのみに生きた生粋の武人。関ヶ原合戦では忠実に従い、途中真田昌幸の奇襲に翻弄され本戦に間に合わなかったが、その運命の全責任を一身に負い秀忠の窮地を救った徳川四天王の一翼だ。安心・安全な学生食堂として屈指の信用と実績を持つ「橋」学生食堂の運営会社。首都圏に9カ所の学生食堂を擁し、どの食堂も行き届いた施設サービスと直接産地から取り寄せた食材を使っての丹誠込めた食事が好評だ。地方から上京してきた学生が勉学に励むことのできる環境づくりは、現代社会の一番橋である。

**国際化 J P (株)**  
 代表取締役 末廣 陽一氏  
 東京都川崎市岸町2-9-25

大國実綱は兄・兼統と共に景勝を支えた上田衆の俊傑。兼統とは考え方も価値観も違っていたが、上杉家のために「という義の心は同じだった。織田信長軍との抗争で戦歴を重ね、小国重頼の養子となり、小国氏の家督を相続する。のちに君命により大國と改め上杉家を支えた。世界中の言語や文化・習慣をそれぞれ尊重しつつ、豊かなグローバル社会の構築を志向。ソフトウェアの国際化こそ目指すところであり、時代から求められた使命だと考えている。個々の地域化対応の作業を可能な限り少なくし、共通の汎用的な部分が出来ただけ多くなるように設計開発、業界旗手として期待大だ。

**(株) シヤノン**  
 代表取締役 中村 健一郎氏  
 東京都港区虎ノ門1-16-16

夏目吉信は徳川家康に仕えた気骨の三河武士。三方ヶ原で武田軍と戦い惨敗し、死を覚悟した家康に「殿さえ存命ならば徳川の道はひらける」と喝破。家康の健児を身に付け陣陣と真ん中に切り込み、身代りとなった忠義の將。明治の文豪・夏目漱石はこの夏目氏の後裔である。企業の課題を解決するマーケティングクラウドのソリューションカンパニー。テクノロジーとサイエンスに基づき、顧客の市場拡大と利益最大化の実現をミッションとして著しい成長を遂げている注目株だ。戦略的なコミュニケーションを実現するソリューションマーケティングプラットフォームで多くの信頼を培う。

**東電池(株)**  
 代表取締役 東 長大氏  
 東京都荒川区南千住6-57-12

結城秀康は秀吉の猶子となった家康の次男。長男・信康亡き後、本来なら徳川家を継いでもおかしくない立場にあっただけに家康も気遣い、若い頃から用いた鎧や武器、采配旗などを授けた。関ヶ原では上杉勢の押さえとして総大将を命じられ、宇都宮にとどまった豪勇の若大将だ。自動車用・産業用蓄電池の販売及び修理に始まり、現在は電源システムや照明機器と取扱範囲を拡大する老舗企業。現代社会のキーワードでもある「安全」「安心」「省エネ」に貢献すべく研鑽してきた。1918年の創業以来受け継いできた、当り前のことを当たり前に、という姿勢が、同社が紡いだ歴史の根幹だ。

**(株) トランス・アーキテクト**  
 代表取締役 中西 俊光氏  
 東京都港区新橋3-3-14

黒田長政は官兵衛の嫡男。官兵衛の隠居に伴って家督を継ぎ、豊前中津に十二万石を領した。その後も戦場で常に先陣を切り、数々の武功をあげた豪將だ。関ヶ原の戦いでは徳川方に味方し、東軍の勝利に大きく貢献。その戦功により筑前五十二万石を与えられ、全国屈指の雄藩とした。コンピュータソフトウェアを開発・構築するITアーキテクト集団。複雑なシステムをシンプルにし、「本物の技術」で少しでもクライアントの業務改善等に貢献することが創業以来の根幹だ。33歳の中西氏が常に先陣を切り、社員もまた若い血脈を盛り、鋭い洞察力とあつて着々と信用を重ね、その伸展に淀みはない。

**(株) エフエクト**  
 代表取締役 鈴木 強志氏  
 神奈川県川崎市高津区2-8-38

益田与助は官兵衛に見出され、一介の使用人から黒田二十四朝の一角にまで昇進した異色派武將。朝鮮鮮出陣時には足輕大將の身ながら、一万石の武將に匹敵するほどの活躍をみせた。律儀で正直な性格を官兵衛は信頼し、筑前入国後は鉄砲組頭に任じ三千石の重臣に取り立てられた。パソコン教室など、現代人にとって必須アイテムとなったパソコンの武芸指南者。大企業ほどのスキルや実績には及ばないが、若い人材ならではの抜群の行動力、高い技術や迅速なサービスの提供こそ、顧客の信頼を育む要因だ。未来への伸び代も大きく意気に燃えている。

**(株) 佐田**  
 代表取締役社長 佐田 展隆氏  
 東京都代田区神田須田町2-11

武田信繁は父・信虎が嫡男、晴信(信玄)を養育して、その後継者と望んだほどの俊才。文武に優れ家臣団からの信頼も厚く、穏やかな人柄ながら戦場では鬼神の如く奮闘した。心から兄・晴信を尊敬し、晴信の良き理解者、また頼れる先駆け武將として、武田家隆盛のために尽くしている。仙台・北京に年間12万着を縫製するオーダーメイド専門自社工場を所有。オーダーメイドの海外縫製No.1企業として、高い品質と手頃な価格で多くの支持を得ている。生地仕入れから縫製まで自社で行うことで、オーダーメイドのコスト合理化を成功させた業界先駆者。創業から90年余の歴史を持つ老舗縫製企業。

**(株) Flawless**  
 代表取締役 上條 勇人氏  
 東京都台東区上野3-22-8

浅野幸長は秀吉恩顧でありながら三成との確執があったため、父・長政と共に東軍に属した。長政は山道から進軍する秀忠軍に従ったが、幸長は本戦に参陣。東軍の先鋒を務め、岐阜城攻略で功を立てた。加藤清正、細川忠興と共に「七人衆」と評された精鋭の一人である。ダイヤモンド・貴金属地金宝飾品の買取を独自のビジネスモデルで進化、深耕させてきている業界先駆者。他社との価格比較単に価格競争の勝者が満ちるのではなく、常に開拓者精神を持ってクライアントから信頼を得てきた。親切丁寧な対応とサービスで好感度も高い。